

## 金融行動

### 1. 行動経済学

2017年に米シカゴ大学のリチャード・セイラー教授が行動経済学への貢献によりノーベル経済学賞を受賞しました。行動経済学は心理学や社会学を経済学に取り入れた学問で、人間は必ずしも合理的には行動しないこと、また不合理な行動には一定のメカニズムや規則性があることを明らかにしました。このことを行動バイアスと呼びます。バイアスとは偏りのことであり、具体的には損失回避傾向、近視眼的行動などがあります。

### 2. 損失回避傾向と近視眼的行動

損失回避傾向は、利益を得た時の喜びよりも、同額の損失を被る時の悲しみの方がより強く感じるためにリスクを避ける傾向のことです。

近視眼的行動は目先の利益にとらわれて、長期的にみると自分に不利益となる行動を選んでしまったり、逆に、目先の労力や心理的負担を避けるために長期的には自分のためになる行動を先送りしてしまう行動です。

下の二つの表は金融広報中央委員会が2016年に行った金融リテラシー調査結果の一部です。

【表1】損失回避傾向が強く、投資しない人の割合 (%)

	男性	女性	合計
18-29歳	67.7	88.5	77.9
30歳代	64.6	88.7	76.5
40歳代	71.6	89.5	80.4
50歳代	72.4	88.6	80.5
60歳代	73.2	86.2	80.1
70歳代	67.5	82.8	75.5
合計	69.5	87.5	78.6

【表2】近視眼的行動バイアスが強い人の割合 (%)

	男性	女性	合計
18-29歳	41.4	42.8	42.1
30歳代	41.6	37.7	39.7
40歳代	45.7	38.7	42.2
50歳代	53.5	44.8	49.1
60歳代	59.6	49.4	54.2
70歳代	62.1	53.1	57.4
合計	50.1	44.2	47.1

出所：金融広報中央委員会 金融リテラシー調査(2016年)

表1は、「10万円を投資すると、半々の確率で2万円の値上がり益か、1万円の値下がり損のいずれかが発生するとします。あなたならどうしますか。」の質問に対して、「投資しない」と回答した人の割合を示しています。約8割と損失回避傾向は総じて強く、株・投資信託・外貨預金等への投資を控える人が多い結果となりました。この傾向は女性の方が強くなっています。

表2は、「お金を必ずもらえるとの前提で、(1)今10万円をもらう、(2)1年後に11万円をもらう」という2つの選択に対し、(1)を選んだ人の割合を示しています。全体の47.1%、70歳代では57.4%と、近視眼的行動は高齢層や男性が強い傾向となりました。

今後の資産形成のあり方を考える上で、大変参考になる調査です。ご興味のある方は金融広報中央委員会HP (<http://www.shiruporuto.jp/>) をご覧ください。

長寿化が進展する中、老後の資産形成のためには、計画的な長期の積み立てと運用が重要となります。陥りがちな行動バイアスを知ること、冷静な金融行動がとれるのではないのでしょうか。